

キャラクター名 榛名睦(ハルナムミ)	プレイヤー名
-----------------------	--------

シンドローム	バロール キュマイラ		ワークス	UGNチルドレンA	カヴァー	UGNチルドレン
	オプション		年齢	16	性別	男性
覚醒	憤怒	衝動	破壊	初期侵食率	33	%
出自	天涯孤独	経験	実験体	邂逅	いいひと	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	36
肉体	3	1	3			7	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	2	0	0			2	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	8		射撃			R C	1		交渉		
回避	5		知覚			意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報:	UGN	5
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
シカ(60↑)	白兵	12r+8		17		装甲無視, HP-8, 素手攻-5
激浪(100↑)	白兵	15r+18		5D+33		超侵蝕有, 装甲無視, HP-10, 素手攻-5

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ロイス					
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費	
二条武晴	P 友情	N 不安			
HOPE	P 好意	N 後ろめたさ			
超侵蝕	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
	P	N			
最大財産P:	4	残り財産P:			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンソレイト:バロール	3	2	Xジャ	-	-	-	-	
効果: C値LV(下限値7)								
完全獣化	2	6	マイナ	至近	自身	自動	□	
効果: 肉体D+[Lv+2]個								
漆黒の拳	5	3	Xジャ	武器	単体	対決	□	
効果: 攻+Lv, 装甲無視, 素手								
漆黒の波濤	1	3	Xジャ	武器	範囲選択	対決	□	
効果: 攻+Lv, 範囲化,								
縮退機関	4	2	マイナ	至近	自身	自動	リミット	
効果: 攻+[消費HP×2], [LV×2]までの任意のHPまで								
神獣撃	2	2	Xジャ	武器	単体	対決	80	
効果: 攻+[Lv+2]D, 完全獣化中のみ, 使用後解除								
ハンティングスタイル	1	1	マイナ	至近	自身	自動	□	
効果: 戦闘移動, 離脱可能, 封鎖無視								
眠れる遺伝子	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 黒猫, 知覚対決によって見抜かれる								
鋭敏感覚	1	-	Xジャ	-	-	自動(知覚)	-	
効果: 感覚器官が特化し広範囲を探索できる, 変化に敏感								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

純血種のキュマイラらしい戦闘スタイルのチルドレン。完全獣化を成して敵を殴打する姿を見たとき、周囲の者たちは初めて、彼がバロールの症状を持つことに納得する。

猫の姿でひとり商店街をぶらぶらするのが好き。覚醒したばかりの二条武晴と遭遇した時、すぐ見抜かれてびっくりした。

自由であることが本懐。自由を求めすぎると孤独になるが、彼の人が彼を1人にさせない。

【覚醒と邂逅】

刑事職だった両親はレネゲイド関連の事件に巻き込まれ、共に殉職。当時8歳の睦は近隣の小さな児童保護施設に預けられた。榛名夫妻と関わりがあったR担当捜査課の刑事・谷修成は、榛名の一人息子である睦を心配し施設へ様子を見に行くが…
 どういうわけかそこにいたのは愛らしい猫の姿をとったオーヴァードの子だった。それが睦であることはすぐに分かった。谷はすぐに睦を引き取り、UGNに引き渡した。いつ、どのタイミングで覚醒に至ったかは不明。しかし、その児童保護施設の実情にレネゲイド研究者の在籍と、研究目的での児童への干渉があると分かった。彼らが何らかの手で覚醒させ、実験動物としてぞんざいに扱った形跡があった。また、破壊された器物、破れた布、床や壁を大きく抉った爪痕など、獣が残した抵抗の跡も確認された。
 研究者達の的になったのは睦のみだったが、彼への扱いは非常なものだったようだ。研究者達に後ろ盾はなく、呆気なく逮捕され送致、施設は閉鎖し、在籍していた孤児達は記憶処理の後他施設へ移された。
 UGNに来たばかりの睦はひどく攻撃的で、大人を信用できず、傷ついていた。見兼ねた谷が実の息子のように接し積極的に関わったことで、閉じ切った心は少しずつ開かれていった。両親を除けば、睦がはじめて信用した大人が谷だった。
 時折、研究者達の手垢が体表に浮かび上がるような感覚に襲われ、衝動と深く結びついている。特にレネゲイド研究者に対しては未だ嫌悪感と偏見を拭えそうにない。
 それでも着実に前へ進むことができる。